

# ちよつといいけ?

温故知新! 掛塚を知る「にーさ、ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。今回は、砂町の芥田光子さんにお話を聞いてきました。



芥田光子さん 八十歳(砂町)

稗原の農家に生まれた光子さんは中学を卒業後磐田市の青島眼科に就職し5年半勤めた後、昭和三十九年二月にシオヤの長男暢薫(のぶしげ)さんの元に嫁いで来られました。

結婚が決まって嫁いで来るまでの半年間は花と料理を習って車の免許を取ってとフル回転だったよ。私は働きながら編み物も習ってただけとお義母さん(けんさん通称:おけんちゃん)が洋裁なんかやってちゃいかんで料理の方がいい、お花はお客さんが揃えてって言ったら出来にゃいかんし車の免許は無いと不自由だからって。(笑)

青島眼科には毎年プールで結膜炎になった掛塚の衆がバス一台ぐらい来てたから、嫁いできたら知ってる衆ばっかだった。「あれ、あんたも目医者に来てたね」って。(笑)

結婚当時は砂町906番地(山本精肉店の南隣で八百屋「塩屋食品」(通称:こめやき)をやったの。お義母さんと暢薫さん、それと近所の人も二人手伝いに来てくれた。お義母さんは働き者で昔はリヤカーを曳いて仕入れに行ってた。

## 時代の流れで二度の移転

砂町906番地は借地だったから昭和四十一年に砂町903番地に鉄筋コンクリートの店を建てて移転したの。「フードセンターシオヤ」(うまいもんなら何でもシオヤ)義弟の暢元さんが山形の大型スーパーを辞めて家族で戻ってきてくれたよ。

ここからは軒並み商店街だったもんで夕方になるとみんな籠を持って買い物したり井戸端会議をしたりで賑やかだったね。

それから車社会になって昭和五十三年に白羽の150号線沿いに移転して「スーパーシオヤ」になったよね。鷹のマークは主人が考えたの。私は配達係りだった。学校給食の野菜を届けたり、お客さんの家まで買ってくれた物を配達してたの。だから私はあちこちに顔が売れた。(笑)

肉屋にも惣菜にも従業員が居たけど、だんだん暇になってきて従業員を減らしたら、もう自分がやるしかないじゃん。だもんで誰か休んだら惣菜に行ったり肉屋へ行ったりと何でもやっただよ。でも魚だけはやらなかったもんで魚の事は一切分りゃへん。(笑)

## 「梅干し」「らっきよ」「金山寺みそ」…惣菜も手作りだったんです

昔の人は何をどれぐらい入れるとか教えないから、お義母さんを手伝いながら見てて…あっ、今お醤油を何杯入れたな、お塩を何グラム入れたなって、そうやって覚えた。

# みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka



## 第32号

- P1 「みんなと餅つき会」開催
- P2-3 しずおか町並みセミナー 掛塚
- P4 ちよつといいけ「芥田光子」さん(砂町)

一月二十日(土)、「みんなと倶楽部 掛塚」主催の地域イベント、新年「みんなと餅つき会」を開催しました。あいにくの雨降りましたが、前日、ブルーシートなどでテントを覆い、餅つきもテントの下。午前十時五十分に一白目の蒸し上がった餅米が届き、先ずはこねる作業から。



# みんなと餅つき会

近頃、餅つきをするにしても、餅つき機を利用する家が多いはず。♪ペタンコ♪ペタンコと杵を振り上げ餅をつく風景を見る機会は少なくなってしまう。私達は、そんな昔ながらの餅つきを、日本の伝統文化として若い人や子供たちにも継承して行きたいと思えます。しかし、杵を振り下ろすだけでは餅はつきません。振り下ろされる杵のタイミングに合わせ、手返しをすることで滑らかでコシと粘りのある食感の餅に仕上がります。つき上がった餅は、水の中でちぎり餅に。

ちぎり餅には、あんこ?きな粉?おろし大根? お皿に乗せたちぎり餅は、希望によって、あんこでもきな粉でもおろし大根でも、何でも自由にオーダー。つきたての餅は、茹でた餅とは比べようがないほどのおいしさです。

子供たち、もしかしたら若者たちの中にも、つきたての餅を初めて食べたという人がいたのかも。みんなでお餅をついて、みんなで食べれば、美味しさは何倍にもなります。それが、「みんなと倶楽部 掛塚」主催の「みんなと餅つき会」の狙い。そして、「餅つき大会」の会場には、募金箱を置かせていただきました。狙いは、もちろん令和6年能登半島地震の災害義援金。被災地の方々の生活を支援するために、少しでも協力できればとの思いで募金をお願いしたところ、ありがたいことに2万円ほどが集まりました。

何でも食べて舌で覚えよって言われてたから何を店から持って来て食べても文句を言われんかっただよ(笑)。作る量が違っても味で確認すればいいね。店で売ろうま煮なんかも勘で作ってた。

「閉店のお知らせ」として、白羽の地で二十九年に亘り営業してきた店を閉めること。これまでの地元の方々への感謝の気持ちが綴られ、以下の文章が続きます。

「今日までシオヤを頼りにして戴いたお客様の明日からの生活を思うと身を斬られるような思いが致しますが、どうかご理解をいただきご勘弁をお願いいたします。くれぐれも食べ物には気をつけて、こころ豊かな生活を勝ち取ってください。ご自愛をお祈りして閉店のご挨拶と致します。店主」

元氣だったお姑(けんさん)が八十八歳で他界、令和元年には最愛のご主人を亡くされ心が沈んでしまった時期もあったそうですが、現在は週に五日はスポーツジムでお友達と身体を動かして笑って喋ることが日課となったそうです。

私の座右の銘は「今日できる事明日にのばすな」。親友からいただいた卒業の寄せ書きの一言を、今も守り続け老いを自覚しながら生きています。



「フードセンターシオヤ」の店先にてご主人の暢薫さんと長男毅さん



白羽150号線沿いに鷹のマークの「スーパーシオヤ」オープン!



家族旅行でひと時の休息 スキー旅行にも毎年行かれていたそうです。

好きなことが出来るから幸せだと光子さん。今でも手作りの梅干し、らっきよ、紅生姜などをお客さんが買いに来られるそうです。市場に行くと頼まれた物を仕入れて来たり、掛塚に嫁いで六〇年、お店を閉めて十七年の現在もいつも笑顔の「シオヤのみつちゃん」は健在でした。懐かしい金山寺やお惣菜の味を思い出しながらのインタビューとなりました。あの味をもう一度!!! のりこ&さゆり



記事 齊藤朋之

## お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください!  
☎ 0538-66-4775 (名倉)

- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、齊藤朋之
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合



みんなと倶楽部  
My hometown Kaketsuka



# しずおか町並みゼミin掛塚

2/18 日曜日

## 「新しい風の予感」

今回の町並みゼミは、会員の皆さんの「掛塚を元気にしたい」の声から始まりました。この会は、開催地が主催する決まりで、初めて参加する私たちはちょっと戸惑いましたが、「見付宿を考える会」や「中野町を考える会」の方たちが応援してくれました。また、半月前の事前打合せには、何と伊東からこの会の発起人である片山さんが来てくれて、あれこれと助言をしてくれたのには驚きました。

まち歩きから懇親会まで、長時間にわたる会でしたが、全員の楽しそうな顔を見て開催してよかったなと感じました。午後の開会時には草田市長も駆けつけてエールを送ってくださり、最後の懇親会には、衆議院議員の宮澤議員が参加され、場が大変に盛り上がりました。

そして何よりも、「掛塚を元気にしたい」という私たちの思いに、参加者全員が真剣に取り組んで私たちにへの提言をまとめてくれたのです。この貴重な声を具体化していくのが私たちのこれからの取り組みになります。今回は、地元砂町やお囃子保存会の皆さんの絶大な協力があり、今後掛塚にも新しい風が吹くような予感がした今回の町並みゼミでした。

松山真

## 「掛塚歴史さんぽ」

午前十時からのガイダンスが終了した後、4つのグループに別れて竜洋西会館を出発しました。私達のグループは、各地からの参加者11名とスタッフ4名の15名です。まずはオシャレなこて絵の郵便マークが美しい「旧掛塚郵便局」を紹介。現在は本格手打ち蕎麦の店「ヤルダ」として地域に愛されています。

次は伊豆石の塀が美しい中町の林家。静岡銀行のもとを作った平野又十郎の生家としても知られる旧廻船問屋で、ナマコ壁の蔵が残っています。平野又十郎は今日の講演テーマにもなっており、系統図より学び合いました。

懐かしい店構えのつるや酒店は明治十七年の建築ですが、当時の銅版画

## 午後のワークショップ

午後の講演の後には、グループごとに分かれてのワークショップでした。60名弱の参加者を7〜8名づつ8グループに分けましたが、会場がパンパン状態。正常なグループ談義は出来るだろうかと危惧しましたが、そこは流石！各地域で街づくりを実践している方々。お題に真摯に向き合っていたら、話が弾んでくれば他の雑音は耳に入らなくなり、各グループ毎の発表時間を含めて1時間15分というタイトなスケジュールリングでしたが、力のこもった話し合いをしていただけました。

細かな内容等は、まとめたものを別の機会でも皆様にも公表したいと考えていますが、午前中に町歩きをして頂いていたことで、掛塚の「みんなと倶楽部」としてぜひ見て欲しいところをご案内した上でのワークショップでしたので、内容も具体性がある、今後の会の進め方や方向性により刺激にもなったと思います。

全体的には、掛塚の地元の方々にはマイナスイメージを持っている点が多くあること。ただ、それは外から来た人々にとっては魅力に映っていること、に驚きを覚えたのではないのでしょうか。普段、その中に身を置いてしまうと見えなくなってしまうこと、自分達には不要で無用だと思っているようなことなどが、外からの目が入ることで、新たな視点を持つことが出来ることに気づかされるが多かったように思います。

掛塚の魅力の一つとして欠かせない「祭り」はもちろんですが、他にも文化財建造物を含め良質な材を使用した家屋、伊豆石・歴史ある寺社・排出された偉人達(こまでは地元会員の皆さんはご承知の内容とは思いますが)・ホンバ垣根の家・狭く入込んだ路地・水路等、外に向けて発信すべきポイントの数々を沢山ピックアップしていただきました。今後はこれらの内容をどのように活かしてゆかか。「マンパワーが素晴らしい」と言っていたただけの会員の皆様、ひとり一人のお力に掛かっています。

今回はお祭り保存会の皆様にも、ご協力・ご尽力いただきました。今回の参加者の中で、少しはお祭り当日にもリピーターして下さる方も見えます。

もちろん、今回の「まち並みゼミ」の成功も、「掛塚お祭り保存会」「みんなと倶楽部掛塚」会員皆さんのお力が各箇所活かされていたお陰です。皆様、たいへんお疲れさまでした。

記事 大島たまよ

からは、その繁栄と規模が伝わってきます。酒樽が運ばれたという水路をたどりながら、次の竜泉寺を訪ねました。ここは旧廻船問屋、津倉家、松下家、鶴谷家などの菩提寺であり、生物学者の丘浅次郎が建てた丘家の墓や山岡鉄舟の石碑もあります。

旧松下家の石倉を見ながら掛塚地区の氏神様貴船神社に到着です。鳥居をくぐり拝殿前で神社の歴史を説明、十月の大祭には9台の屋台がここに集結することを話しました。折り返しも本町の若者が屋台の手入れをしているところに遭遇し、見学させてもらいました。

旧掛塚橋跡から天竜川を望み、旧津倉家に到着。玄関前で記念撮影。津倉家は、上等な木材と腕の良い大工が築いた魅力いっぱい木造二階建寄棟造の住宅で、掛塚を代表する文化財です。

約二時間の見学でしたが、皆さん大変熱心に聞いていただき午後からの講演とワークショップが楽しみになりました。

鶴藤孝

## 「9時45分受付開始から始まった【第十八回しずおか町並みゼミin掛塚】」

県内の地域を元気にしようと、それぞれ活動されている人達が、遠くは伊東市、静岡市清水区から早朝より参加して下さいました。バスの本数が以前より減った事や駐車場の問題等、外部の方に寄って頂ける環境作りの大切さを感じます。

15分間の受付時間に、それぞれの町を考える会、都市計画協会、全国町並保存連盟、伊豆石文化探究会、まちづくりの会、浜松学芸高校、静岡産業大学、住友林業等々、50名程度の方々にお集まり頂きました。

皆さんそれぞれの地域の活性化のためどのようにしたらよいか。掛塚の町ってどんな町だろうか。見学をして頂いてそれぞれ小グループに分かれての意見交換をし、皆さんのわくわく感が伝わってきました。

当倶楽部の池田会長の挨拶の中に、この掛塚は天竜川の中州で島であった事を話されました。それをどれだけの方々知っているだろうか。脈々と歴史が繋がれてきた中で、旧掛塚郵便局が蕎麦のヤルダさんに変身。古き良き時代と今との結びつきが更に増え、町が元気になってくれたら良いと思います。今回集まって下さった方々のご意見を参考に掛塚の町づくりを考えていきたいと思います。

兼子しず子



林 邸の伊豆石の塀



町歩き



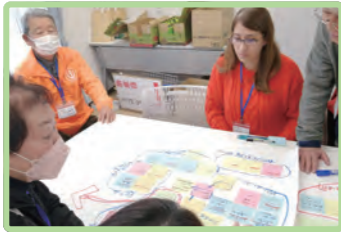
津倉邸の玄関前にて



受付は大忙し



グループ発表



ワークショップ



ワークショップ



林 邸の蔵

## 会員・賛助会員・ボランティア会員募集！

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。

正会員

運営・企画に携わっていただきます。年会費 3,000円をお願いします。

賛助会員

会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。1口1,000円の年会費となります。

ボランティア会員

会の事業・イベントに、いつでも気軽にご参加ください。会費はありません。小・中・高校生の方も気軽に参加してください。

振込先はこちら

静岡銀行 竜洋支店 普通預金  
口座番号 0418125  
名義：みんなと倶楽部掛塚代表 池田藤平

ゆうちょ銀行 店番 238 普通預金  
口座番号 5027208  
名義：みんなと倶楽部・掛塚

